

IBAだより 第16号

《 茨城県吹奏楽指導者協会 》

令和3年10月2日発行

発行人 茨城県吹奏楽指導者協会会長 梶原征剛

事務局 水戸市緑町1-10-26 島田博正

ごあいさつ

茨城県吹奏楽指導者協会（IBA）会長 梶原 征剛

昨年度のIBAは、「第23回ソロコンテストいばらき」の1次審査を終えて、本年2月13日、14日に東海文化センターで県大会を開催するために準備万端整えて本番当日を待っていました。ところが、その直前に新型コロナウイルスのために「茨城県独自の緊急事態宣言」が発令されたため、誠に残念ながら中止をせざるを得なくなったのであります。

IBAは「ソロコンテストいばらき」の次のステップである「ソロコンテスト関東甲信越大会」へ参加するために、これまで、1次審査を合格した人たちを対象に県大会を開催して、そのステージ上での演奏に対して審査し、県の代表として推薦してまいりました。従って、昨年度は県大会が開けなかったため、関東甲信越大会への選出はできないことを、日本吹奏楽指導者協会（JBA）関東甲信越支部へ報告をいたしました。ところが、同支部から例年通り何とか推薦して欲しいと再度の強い要望がありました。だが、IBAは県大会を実施しないで推薦した例は今までにはなく、また、このことに対して少なからず抵抗がありました。しかし、参加した中学生・高校生、またご指導された先生方のためにも、今まで通りに選出できる方法はないものかと、何度となく会議を開き検討を重ねた結果、従来の形ではありませんが、「茨城県代表選考審査会」を開いて、再び、1次審査を合格した人の音源を再審査して、中学生4名と高校生4名、合計8名を「第19回JBA関東甲信越支部中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」へ推薦したのであります。そして、その結果、この8名のうち中学生の部2名、高校生の部1名が、「第25回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」へ進出して優秀な成績を収めて、再び、茨城県の管楽器のレベルの高さを全国へ証明してくれたのです。この快挙に、私は心より拍手を贈ったのは勿論のこと、IBAが議論を重ねて関東甲信越大会へ送り出したことは素晴らしい決断であったと思っています。その様子を、全日本大会へ進んだ本人たちが、この「IBAだより」に詳しく掲載していますので、どうぞ、そちらをご覧ください。

現在、IBAは「第24回ソロコンテストいばらき」を、今年度もまた、「(公財)げんでん ふれあい茨城財団」からのご協力を得て、準備を進めているところであります。そして、令和4年2月11日、12日の両日に、東海文化センターに於いて県大会の開催を決定いたしました。

しかし、ご承知の通り、コロナ禍の中での開催に不安な面も多々あります。IBAは県大会を開いて、皆さん方の「生の音」を審査する方針をこれからも変えるつもりはありません。しかし、コロナの状況によっては不本意ではありますが、音源審査の可能性を否定できないことも事実であります。そこのところをご理解いただきまして、どうぞ、皆さん方の奮ってのご参加をお待ちしています。さらに、ご指導いただいている先生方からも、力強いサポートをよろしくお願い申し上げます。

(茨城大学 名誉教授)

「感謝の気持ちをもって」

ひたちなか市立勝田第三中学校 大内 悠生

今回、関東甲信越大会に出場し第二位、全国大会でも第二位および東京都教育委員会賞をいただくことができて大変光栄に思います。「新しい自分に出会いたい」という思いから今回このソロコンテストに出場しようと決意しました。そんなときにクレストンという作曲者の「ソナタ OP.19」と出会い、「これだ」と感じてこの曲に決めました。

初めて楽譜を手を取ったときは、「本当にできるのか」と不安になりましたが、絶対にこの曲を完成させてやるという覚悟を決めて練習しました。しかし、吹奏楽と違いソロコンテストは一人で練習するため孤独感を感じるようになり、また何百回と練習しても自分の納得のいく演奏ができず、どんどん自分に自信がなくなっていき、大会に対する不安や焦りが増す、辛く苦しい時期が続きました。

そんな時に私を支えてくれたのは、家族や先生、友達でした。私が悩んでいる時はいつも応援をしてくれ、この時初めて「自分は独りじゃないんだ」ということに気付く事ができました。今までは審査員に高得点をもたらす演奏、模範的な演奏を目指していたのですが、この事に気付いてからは、応援してくれる人に感謝の気持ちを伝えられる演奏、そして自分が吹いていて楽しいと思える演奏をしようと考えようになりました。それによって肩の力が抜けて、本番でもリラックスして演奏することができたのだと思います。

全国大会の演奏はまだまだ改善点がありましたが、今まで応援してくださった方々に感謝を伝える演奏はできたと思います。次は納得のいく演奏ができるようにもっと練習し、音楽を通して聴いている人に笑顔を届けられる演奏を目指し、私を支えてくれる方々へ感謝の気持ちを忘れずに、これからも精進していきたいと思っています。

応援してくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。

【令和2年度ソロコンテスト全日本大会中学生部門第2位、東京都教育委員会賞受賞、
関東甲信越大会中学生の部第2位受賞】

「周りの人たちに支えられて」

東海村立東海中学校 小泉 香奈

私が初めてソロコンテストを知ったのは、小学校四年生の時でした。一つ上の先輩がげんでん音楽賞を受賞し、私も「ソロコンテストで受賞したい」と思ったのが始まりでした。

小学五年生でげんでん音楽賞受賞を達成し、六年生では「げんでん音楽大賞を受賞すること」を目標として猛練習をしました。目標を達成し、特別演奏者として関東甲信越支部大会で中学生に交じり演奏できたことはいい経験となりました。

中学生になって初めてのソロコンテスト。小学生の時にげんでん音楽大賞を受賞していたことで少し油断していました。自分の前の人の演奏や他の楽器の人の演奏を聴いた私はとても不安になりました。予想は的中。関東甲信越支部大会という憧れの大会に出場することができませんでした。その時に感じた悔しさは今でも忘れることはありません。

その日から次のソロコンテストに向けて、必ず毎日1時間は練習することを決め、時間を大切にしました。

中学二年生になり、「ソロコンテスト全国大会出場」という大きな目標を掲げ、今回のコンテストの舞台に立ちました。県大会は録音審査のみでしたが、念願の関東甲信越支部大会に推薦していただきうれしかったです。関東甲信越支部大会では練習の成果を発揮することができ、全国大会へ駒を進めることができました。しかし、やっと手にした全国大会を目の前に左手中指を損傷するアクシデント。コンクールの事で初めて涙を流しました。自分の大切な手を守ることが出来なかった事を反省し、通院しながら今出来る事を精一杯頑張りました。万全の状態ではなかったものの、両親をはじめ沢山の方に支えられ本番に挑むことが出来た事に感謝しております。

私は、ソロコンテストを通じて沢山の方の協力があって今の自分があることを再確認できました。これからも感謝の気持ちを忘れず、色々なコンクールに出場し上位大会を目指せるよう努力していきたいと思っています。

【令和2年度ソロコンテスト全日本大会中学生部門出場、関東甲信越大会中学生の部第3位受賞】

「悲願の全国大会出場」

茨城県立境高等学校 野村 瑠星

私は中学生の頃からこのコンテストに出場しており、全国大会に出場することを目標として日々練習してきました。そして今回、茨城県代表、更には関東甲信越支部代表として全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテストに出場することが叶いました。

今回演奏した「シシリエンヌとアレグロジョコーソ」は、フランスの作曲家であるガブリエル・グロヴレーズによって作曲されました。曲名にもある"シシリエンヌ"は、バロック期における舞曲の1つで、非常にゆったりとした音楽が特徴です。また、今回この曲を演奏するにあたって、自分で踊って曲想やフレーズ感を掴むということもしました。曲の後半はテンポが速く、フィンガリングやタンギングで苦勞しました。また、速いテンポの中で如何に表現をするかがこの曲での自分の1番の課題でした。そこで、参考音源を何度も聴いたりテンポを落として練習したりして、課題を克服していきました。本番ではかなり緊張しましたが、自分がそのとき出せるものを全て出すことができました。全国大会への出場が決まったときは夢かと思うぐらい嬉しかったです。全国大会では賞を得ることができませんでしたが、演奏が終わったあとの達成感他では得がたいものでした。最高の4分間だったと思います。

今回のコンテストは、当初県大会が中止となっていました。しかし多くの方がご尽力くださり、録音審査によって県大会が開催され、その結果私は上位の大会まで進むことができました。本当に感謝しています。

最後に、今回のソロコンテストでは多くの貴重な経験をすることができました。これからもファゴット、そして音楽と共に、日々精進していきます。本当にありがとうございました。

【令和2年度ソロコンテスト全日本大会高校生部門出場、関東甲信越大会高校生の部 審査員清水大輔賞受賞】

JBA関東甲信越支部「第19回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」

JBA茨城県部会事務局長 古井 忍

新型コロナウイルスによる感染が拡大している中、JBA関東甲信越支部「第19回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」が、令和3年2月21日(日)昭和音楽大学ユリホールにおいて感染防止対策を講じながら無観客で開催されました。茨城からは、ソロコンテスト茨城県代表選考審査(第23回ソロコンテストいばらき)で代表になった中学生4名、高校生4名が出場しました。

中学生の部では、勝田第三中学校2年の大内悠生^{ゆうき}さんが第2位を、東海中学校2年の小泉香奈さんが第3位を獲得してそれぞれ全国大会に出場しました。また、大島中学校3年の津金凜杏^{りん}さんが樋口哲夫審査員賞を受賞しました。高校生の部では、県立境高校2年の野村瑠星^{りゆうき}さんが全国大会出場と清水大輔審査員賞を獲得しました。また、明秀学園日立高校1年の大峽悠太^{おおば}さんが福本信太郎審査員賞を受賞しました。

そして、3月26日(金)東京音楽大学で開催された全国大会では、勝田三中の大内悠生さんが卓越した技術と高い音楽性を披露して見事第2位に輝きました。

1月の茨城県緊急事態宣言発令以降、十分な練習ができない状況で関東甲信越支部大会に参加された代表の皆さんでしたが、日頃の練習で培われた演奏技術と音楽性を披露する機会を得、努力に見合う結果が出せたことに心から敬意を表したいと思います。

<< 事務局より >>

I B A 事務局長 島田 博正

今年度のソロコンテストいばらき日程

- ソロコンテスト一次審査 R4. 1/ 8 (土)～10 (月祝)・15 (土) ひたちなか市文化会館他(予定)
- ソロコンテスト県大会 R4. 2/11 (金祝)・12 (土) 東海村東海文化センター(決定)

昨年度は、県内5地区から538名の一次審査参加者がありました。

一次審査が無事終了したその時点で、コロナウイルスの蔓延により、茨城県教育委員会から、小学生、中学生、高校生、ともに吹奏楽の活動を自粛するよう通達が出されました。県内全ての会館も休館となり、県大会は中止としました。しかし、関東甲信越支部から、県の代表を是非選出して欲しいという強い要望が有り、苦渋の策として、一次審査のCDを使用した県代表選考審査会を東海原子力館別館で実施することとなりました。

その結果、中学生5名・高校生5名を茨城県代表として推薦する運びとなり、関東甲信越大会でも、中学生の部で大内悠生さん、小泉香奈さんが、高校生の部では野村瑠星さんが東京音楽大学で開催される全国大会に進みました。今年度も多くの皆さんが参加され、すばらしい演奏を聴かせて下さることを期待しています。

CDの処理について

昨年度も各学校から送られたCDの取り扱いに間違いがいくつもありました。地区事務局担当者へ送る際、一次審査参加要項の4をよく確認するようお願いいたします。また、書類等の提出については、再度参加要項をよく確認していただき間違いの無いようご協力をお願いいたします。

お知らせ

県大会はステージ演奏を予定していますが、感染状況によっては音源審査となることもあります。各演奏者においては、音源審査と本人確認のための演奏録画データを、県大会用の予備としてあらかじめ準備しておいてください。

令和2年度 第23回ソロコンテストいばらき 一次審査参加者数・県代表選考審査会出場状況

| | 一次審査 | 県表彰 |
|-----|------|-----|
| 小学生 | 県央 | 8 |
| | 県東 | |
| | 県南 | |
| | 県西 | 2 |
| | 県北 | |
| | 計 | 10 |

| | 一次審査 | 代表選考 |
|-----|------|------|
| 中学生 | 県央 | 122 |
| | 県東 | 38 |
| | 県南 | 60 |
| | 県西 | 116 |
| | 県北 | 42 |
| | 計 | 378 |

| | 一次審査 | 代表選考 |
|-----|------|------|
| 高校生 | 県央 | 49 |
| | 県東 | 13 |
| | 県南 | 42 |
| | 県西 | 29 |
| | 県北 | 17 |
| | 計 | 150 |

「げんでん財団」は
ふれあいとゆとりある
地域づくりに貢献します

(公財) げんでん ふれあい茨城財団

日本原子力発電(株) 東海事業本部 地域共生部内(東海村白方1-1) TEL. 029-287-1251
茨城事務所内(水戸市笠原町978-25) TEL. 029-301-1511